



ベトナムの県知事などから記念品が贈られた吉田さん

輝いています

ひと

国際協力コンサルタント

よし だ き よし さん
吉田 喜義 さん

希望の未来へ架かる橋を

開 発途上国に対する支援や技術協力などを行う JICA（独立行政法人国際協力機構）。総合建設会社を定年退職後、その JICA の委託で主に東南アジアの土木工事の現地調査・施工監理業務を行っているのが吉田喜義さん（69歳・中央1丁目）です。ときには1年半以上も現地に駐在しながら快適で安全な暮らしの実現に尽力しています。屯田兵で北海道の北見に入植した家に生まれた吉田さん。小学生の頃、大自然の中を細々と走る国道39号線が改良工事され、みるみるりっぱになる様に感激し、その作業を行う土木従事者に憧れるようになり、就職後は、国内外

の橋や道路などの土木工事に従事。50代半ばでプロジェクト責任者として挑んだベトナムのバイチャイ橋の建設では、中央径間（橋脚間の距離）が435メートルと当時世界最長の橋を完成させることができました。退職後も、「未発達なインフラが整備されていく感動をより多くの人に」との思いから、1年の充電期間を経て現業に復帰した吉田さん。約15年間の海外での経験を生かし、政府開発援助による工事の監理者を務めています。工事においては「ものづくりは人づくり」と、日本式の安全対策やメンテナンスができるよう人材教育を重視。「手がけてきた橋や道路が時を経てもしっかり管理され、現地の皆さんに活用されている様子を見て回るのが夢です」と、目を細めます。現在も1週間の日程でカンボジアに飛ぶなど多忙な毎日です。そうしたなか、中央小の学校土曜塾や放課後子ども教室にも参加し、これまでの体験を基にフロンティア精神を持ち、挑戦することのたいせつさを伝えている吉田さん。人生の第二ステージでは、子どもたちを夢や目標へとつなぐ心の橋も建設しています。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 巖にあり

— No.37 —



現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ きょうさい
河鍋 暁斎
天保2年(1831)
～明治22年(1889)



暁斎筆「鍾馗と鬼図」
紙本淡彩 軸装

本作品は現在の展覧会で御覧いただけます

長い鬚、髪を逆立てた鍾馗様が左手で小鬼をつかみ、厳しい表情でこちらを見据えています。鍾馗はもともと古代中国の神です。唐の時代に玄宗皇帝の夢に現れて悪さをしていた小鬼を退治し、皇帝の病気を治して以来、鍾馗の絵を門に貼って悪病除けとするようになったといわれていますが、日本では端午の節句に鍾馗の人形や絵を飾り、子どもの健やかな成長を祈願することが知られています。なお、この画には暁斎の作品であることを示す落款や印影はありませんが、暁斎の娘・暁翠による、暁斎の真筆であるとする鑑定書が添えられており、暁斎が描いた鍾馗図であることが確かな作品です。

河鍋暁斎記念美術館 6月25日(火)まで

「暁斎没後130年記念 暁斎の歴史画・物語絵」展
同時開催「暁斎プラスワンシリーズ30 勇の鍾馗」展

開館＝午前10時～午後4時
休館＝木曜日・毎月26日～末日
ところ＝南町4-36-4
入館料＝一般600円 65歳以上500円
高校生・大学生500円 小・中学生300円
※65歳以上の人は年齢の分かる物、学生は学生証をご提示ください。
詳細＝同館(☎441-9780)
(20人以上の団体は要予約)



展覧会の詳しい内容は美術館のホームページをご参照ください

